

大学等名	梶山女学園大学
プログラム名	梶山女学園大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

② 対象となる学部・学科名称

③ 修了要件

教養教育科目の「AI・データと社会」(2単位)を修得すること。

必要最低科目数・単位数

1

科目

2

単位

履修必須の有無

令和10年度以降に履修必須とする計画、又は未定

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
AI・データと社会	2	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
AI・データと社会	2	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
AI・データと社会	2	○	○	○					

⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
AI・データと社会	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
AI・データと社会	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
AI・データと社会	4-1統計および数理基礎		
AI・データと社会	4-2アルゴリズム基礎		
AI・データと社会	4-3データ構造とプログラミング基礎		
AI・データと社会	4-6画像認識		
AI・データと社会	4-8データ活用実践(教師あり学習)		
AI・データと社会	4-9データ活用実践(教師なし学習)		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 AI、複数技術を組み合わせたAIサービス、人間の知的活動とAIの関係性、データを起点としてものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方(第1回) ビッグデータ、データ量の増加(第2回) Society5.0、生成AI(第3回)
	1-6 AI最新技術の活用例(第3回、第6回) AI等を活用した新しいビジネスモデル(第6回)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど(第2回) 1次データ、2次データ、データのメタ化(第2回) 構造化データと非構造化データ(第2回、第3回、第6回) データ作成、オープンデータ(第2回、第3回)
	1-3 データ・AI活用領域の広がり、研究開発、AIの活用事例、対話、コンテンツ生成、翻訳・要約支援などの生成AIの応用(第3回)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、モデル化とシミュレーション(第4回、第5回) データの可視化: 関係性の可視化(第4回)
	1-5 製造、金融、教育、医療等におけるデータ・AI活用事例紹介(第4回) データサイエンスのサイクル(第5回)

(4)活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	AI社会原則(第6回、第10回) 個人情報保護(第7回、第10回) AIサービスの責任論(第6回) データ倫理、プライバシー保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、生成AIの留意事項(ハルシネーションによるご情報の生成)(第7回) 倫理的・法的・社会的課題(ELSI)、データ倫理、データバイアス、アルゴリズムバイアス、データ・AI活用における負の事例紹介(第10回)
	3-2	アクセス制御、情報漏えい等によるセキュリティ事故の事例紹介、サイバーセキュリティ(第7回) 情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性)、匿名加工情報、暗号化と復号(第11回)
(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での事例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	データの種類(量的変数、質的変数)(第8回) データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)(第4回、第8回) データのばらつき、外れ値(第4回、第5回)
	2-2	データ表現(棒グラフ、折れ線グラフ、箱ひげ図)(第4回、第8回) データの比較(第8回、第9回)
	2-3	データの集計、データ解析ツール(第4回、第8回、第9回) 表形式のデータ(csv)(第5回、第8回、第9回)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- ・現代社会におけるデータサイエンスやAIの重要性を理解し、その利活用の現状を把握することができる。
- ・データやその分析結果を読み取るための基礎知識を身に付けることができる。
- ・データやAIを利活用する際の留意事項を把握し、その重要性を理解することができる。
- ・プログラミング、アルゴリズム、機械学習など、AI・データサイエンス分野における技術的基礎を理解することができる。
- ・表計算ツールを活用して、適切にデータの収集・分析、グラフ作成、データベース操作を実行できる。

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和6年度(和暦)

②大学等全体の男女別学生数
(令和6年5月1日時点)

男性 0人 女性 5,055人 (合計 5055人)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数												
生活科学部	1,115	257	1,038	45	38											45	4%
外国語学部	98	200	200	10	7											10	5%
人間関係学部	675	200	846	4	4											4	0%
情報社会学部	133	220	220	61	54											61	28%
現代マネジメント学部	785	190	730	18	14											18	2%
教育学部	690	170	692	20	18											20	3%
看護学部	461	110	410	0	0											0	0%
国際コミュニケーション学部	498	-	670	0	0											0	0%
文化情報学部	600	-	668	0	0											0	0%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合計	5,055	1,347	5,474	158	135	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	158	3%

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人

② プログラムの授業を教えている教員数 人

③ プログラムの運営責任者
 (責任者名) (役職名)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

 (責任者名) (役職名)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

⑥ 体制の目的
 本学における基礎的情報教育を一元的に行うとともに、情報科学技術の研究を行うために設置する相山女学園大学大学情報教育開発センターの運営方針に基づき、次の事項に関する業務を行う。
 (1)情報教育及びその方法の開発
 (2)情報科学技術の分野における研究開発
 (3)学術研究に必要な情報化に関する事項の企画及び各学部間の調整
 (4)相山女学園情報センターが実施する情報教育等の支援
 (5)その他センターの運営に必要な業務
 相山女学園大学情報教育開発センターの業務を円滑に運営するために、相山女学園大学大学情報教育開発センター運営委員会は次の各号に掲げる委員をもって構成する。
 (1)センター長及び教育研究主幹
 (2)各学部から選出された委員各1名
 (3)その他センター長が必要と認めたもの

⑦ 具体的な構成員
 大学情報教育開発センター
 センター長 情報社会学部 教授 米田公則
 教育研究主幹 情報社会学部 教授 松山 智恵子
 大学情報教育開発センター運営委員(センター長、教育研究主幹以外)
 生活科学部 教授 村上 心
 外国語学部 教授 飯塚 恵理人
 人間関係学部 教授 五百部 裕
 情報社会学部 教授 松山 智恵子
 現代マネジメント学部 教授 石井雅治
 教育学部 准教授 渡邊 康
 看護学部 教授 高植 幸子

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和6年度実績	3%	令和7年度予定	8%	令和8年度予定	16%
令和9年度予定	23%	令和10年度予定	30%	収容定員(名)	5,474

具体的な計画

本プログラム科目である「AI・データと社会」は令和6年度入学生の教育課程から新設された1年次の選択科目である。このため、開講初年度となった令和6年度は、1年生のみの履修となったため、履修者は3%にとどまった。また、学部・学科によって履修者数にばらつきがあったが、年次を経るにつれて履修者数・履修率ともに増えていくことが予想できる。学生に本プログラムの趣旨や目的を周知することで、履修者数の向上を目指していく。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

全学生が履修可能な教養教育科目(1年次配当)において本プログラムを実施している。「AI・データと社会」は授業実施形態を遠隔授業(オンデマンド形式)とし、多くの学生が履修しやすい形態とした。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

履修ガイダンス等にて説明し、案内文書を大学ポータルサイトで配布し周知する。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

「AI・データと社会」(オンデマンド形式)では、毎回の講義の資料はLMSにアーカイブとして蓄積され、学生はLMSからこれらの資料にいつでもアクセスすることが可能となっている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

授業時間内では教員による学習指導を受けられる他、授業時間外でも教員にLMSやメール等で質問・相談することができる環境となっている。また、教員のオフィスアワーも全学生に知らせており、学生は対面での相談も可能である。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

相山女学園大学大学情報教育開発センター運営委員会

(責任者名) 米田公則

(役職名) 大学情報教育開発センター長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	本学教務課にて本プログラムの履修・修得状況を管理するとともに、これらのデータを大学情報教育開発センターにおいて情報共有し、本プログラムの評価・改善に活用している。
学修成果	大学情報教育開発センター運営委員会にて、本プログラムの履修・修得状況、成績の分布を確認する。また、学生による授業アンケートの結果の分析を行うことにより、学修成果の点検・評価を行う。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	初年度である令和6年度は学生による授業アンケートを授業終了後に実施したが、次年度からは本学FDで実施している授業アンケートを実施していく。アンケートの結果については本学ポータルサイトにて公開している。アンケート結果は「AI・データと社会」科目会議において共有し、本プログラム受講者の理解度等の分析に役立てている。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本プログラムの履修者に対して、大学授業アンケートを実施し、授業に対する満足度や、後輩や未履修者への推奨度などの調査を行い、その結果を学生へ公開することで、本プログラムの履修を推奨するために活用する。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	履修ガイダンス等で本プログラムの目的・意義などを説明する機会を設け、履修者数向上を図る。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>本プログラムは令和6年度より開講されたため、当該科目を修得し、単位を修得して卒業した学生はいない。今後はプログラムを修了した卒業生の就職先実績等を鑑み、プログラム改善の判断材料の一つとする。</p> <p>本学では「内部質保証に関する全学的な方針」を定めており、この中で外部評価を実施することとしている。この外部評価の中に本プログラムに関する事項を含めることで、本評価とすることとしたい。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>本プログラムの科目である「AI・データと社会」において、身近な社会におけるAIの利活用をテーマにしており、数理・データサイエンス・AI教育を実体験に即した経験として考えることができ、学ぶ楽しさや学ぶことの意義を理解するように促している。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>学生による授業アンケート等を参考にし、随時、学生の「わかりやすさ」の観点から講義の内容・実施方法の見直しについて検討している。</p>

検索条件入力

開講年度	<input type="text" value="2024年度"/>	
開講所属	<input type="text"/>	▼
科目分類	<input type="text"/>	▼
対象学年	<input type="text"/>	▼
授業科目名	<input type="text" value="AI・データと社会"/>	
担当教員	<input type="text"/>	▼ <input type="button" value="教員選択"/>
開講期	<input type="text"/>	▼
曜日	<input type="text"/>	▼
時限	<input type="text"/>	▼
キーワード等	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>	<input type="button" value="AND"/> ▼
実務経験	実務経験のある教員による授業科目 <input type="checkbox"/>	

シラバス印刷

授業科目名 [Course]	AI・データと社会		
担当教員 [Lecturer]	鳥居 隆司 / 松山 智恵子 / 向 直人 / 木田 勇輔 / 早瀬 光浩 / 福安 真奈 / 塩澤 友樹 / 矢島 彩子		
授業科目区分 [Classification]	教養教育科目	単位数 [Credits]	2単位
授業区分 [Lecture Classification]	講義		
開講学科 [Department]	教養教育科目		
学年 [Year]	1年生	開講期 [Semester]	後期
曜日・時限 [Day・Period]	後期 土曜日 1時限		

授業テーマ [Title]	データやAIを活用するための基礎知識を学ぶ			
授業の到達目標 [Objectives]	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会におけるデータサイエンスやAIの重要性について理解し、その利活用の現状について把握すること ・データやその分析結果を読み取るための基礎知識を身に付けること ・データやAIを活用するための留意事項を把握し、その重要性を理解すること ・プログラミング、アルゴリズム、機械学習などAI・データサイエンス分野における技術的基礎を理解すること 			
育成する能力 [Capability to improve]	知識・理解 [factual Knowledge and understanding]	思考・判断 [thinking faculty and discernment]	態度・志向性 [perspective and intentionality]	技能・表現 [skill and expressiveness]
授業内容 [Course Contents]	<p>本授業はメディア授業科目である。社会においてデータサイエンスやAIが普及する中で、AIやデータサイエンスに関する基礎知識を身に付けることを目標とする。まず、社会で活用されているデータの形式について学んだうえで、データ・AIの活用領域や活用のための技術を学ぶ。また、データ・AIが利活用されている事例について学ぶとともに、その最新動向を知る。後半の授業ではデータの基本的な読み方を学ぶとともに、データ・AIを扱う上での留意事項やデータ・AIを守る上での留意事項を学ぶ。また、データ構造やアルゴリズム、プログラミングの基礎についても学修する。そのうえで、データ・AIに関する応用的な技術や活用実践を学ぶ。(オムニバス形式/全15回)</p>			
授業計画 [Class Plan]	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会で起きている変化: 人間の知的活動とAIの関係性、AI・データサイエンスを学ぶ意義(木田) 2. 社会で活用されているデータ: 調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなどのデータ形式(福安) 3. データ・AIの活用領域: データ・AIなど様々な領域での活用の広がり(福安) 4. データ・AI利活用のための技術: データ解析やデータ可視化の諸手法(向) 5. データ・AI利活用の現場: データサイエンスの手順、データ・AI利活用事例(向) 6. データ・AI利活用の最新動向1: AI等を活用した新しいビジネスモデルやAI最新技術の活用例(矢島) 7. データ・AI利活用の最新動向2: 前回に引き続き事例紹介、現在のトレンド(矢島) 8. データを読む1: データの種類、分布、代表値とばらつきなど記述統計学の基礎知識(塩澤) 9. データを読む2: 標本抽出、誤差、相関と因果など推測統計学の基本的な考え方(塩澤) 10. データ・AIを扱う上での留意事項: ELSI、個人情報保護、データ倫理、アルゴリズムバイアスなど倫理的な留意事項(松山) 11. データを守る上での留意事項: 情報セキュリティ、匿名加工などの諸技術と事故例(松山) 12. データ構造とプログラミング基礎: データの基本的な構造とプログラミングの基礎(鳥居) 13. アルゴリズム基礎: アルゴリズムの表現方法と基本的なアルゴリズム(鳥居) 14. 画像解析: 画像データの処理、画像認識、画像分類、物体検出など画像解析の基礎(早瀬) 15. データ活用実践: 教師なし学習、教師あり学習の違いと具体的事例(早瀬) 			
授業の進め方 [Method]	メディア授業科目として全学部からの受講を想定しているため、オンデマンド形式で教材を配信する形で授業を実施する。受講者は教材による学習を行った上で、課題に回答すること。なお、授業の双方向性を担保するために、LMSを用いた意見表明やディスカッションを求めていることがある。			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック [Instructor Feedback on Coursework]	LMSを通じて課題の得点をフィードバックする。受講者からの質問があった場合は、配信する教材やLMSを通じて回答する。			
アクティブ・ラーニング [Active・learning]	<input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディベート・討議 <input type="checkbox"/> フィールドワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 学外授業 <input type="checkbox"/> 製作 <input type="checkbox"/> 実験 <input type="checkbox"/> インタビュー、質問紙調査による情報収集 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館やインターネットによる情報収集 <input type="checkbox"/> ワークショップ学習 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 課題研究 <input type="checkbox"/> その他()			
評価方法と成績基準 [Evaluation & Grading Criteria]	<p>毎回の課題(100%) <評価観点>各教員が授業内容に沿った課題を10点満点で出題する。課題の形式は選択式、記述式、論述式の問題を組み合わせたものである。選択式・記述式の問題では授業の内容を正確に理解できているかを問うものである。また、論述式の問題では各自がその回のテーマについて発展的な考察を行っているかどうかを問う。</p>			
授業時間外学修 (事前・事後学修等) [Preparation・Review]	<p>事前学修: 各回のキーワードを提示するので、その意味を各自で調べておくこと(1時間) 事後学修: 授業教材を復習し、課題に回答すること。また、各回で意見表明やディスカッションを求められた場合は、それらに参加すること(3時間)</p>			
担当教員メッセージ受講学生に望むこと [Message to Students]	データサイエンスやAIは非常に重要な分野ですが、難解なイメージを持っている方も少なくないかもしれませんが。本授業では文系の学生もターゲットにしながら、データサイエンスやAIについてそのエッセンスを基礎から理解することを目的とした科目です。ぜひ受講を検討してください。			

履修上の注意 [Notes]	オンデマンド形式で運用しますので、自宅で受講する予定の方はインターネット環境を整備するようにしてください。授業に関する質問は全体についてはコーディネーターの木田、各回の授業についてはその回の担当者にお問い合わせください。
キーワード [Keyword]	AI、機械学習、データ、社会
教科書 [Textbook]	指定しない
参考書 [Supplementary Materials]	授業内で指示する
担当教員の実務経験と当該授業との関連 [Relationship between practical experience of the teacher and the class]	矢島:ITコンサルティング企業での実務経験に基づき、データサイエンスやAI分野における最新の動向を講義する

Sugiyama

梶山女学園大学

情報社会学部

履修の手引

..... 2024

卒業まで
使用します

1. 教養教育の目的

教養教育は、幅広い教養を身につけ、豊かな人間性を育成し、社会の要請に応える基礎的能力の育成を目的としています。

幅広い教養とは、様々な学問成果の基本を理解し、異文化・自文化を理解し、諸問題に対応しうる社会的、市民的教養のことであり、これらの教養を高めることで、豊かな人間性の育成を図ります。また、社会の要請に応える基礎的能力として、コミュニケーション能力、情報処理能力、メディア活用力・情報収集分析力、論理的思考力・課題発見力等を育成します。

2. 7つの領域

教養教育は7つの領域に分かれており、バランス良く修得することで、幅の広い教養を身につけ、豊かな人間性を養うことができます。7つの領域の目的は、次のとおりです。

領域1 思想と表現	人間の築き上げた思想、芸術、文化などとその受容の在り方を学び、人間の精神活動全般への理解を深めることによって、豊かな自己表現能力や判断力を育成します。
領域2 歴史と社会	現代に至るまでの人類の歩みや、社会のさまざまな仕組み・事象を総合的に理解することを通して、社会が直面する課題を具体的に把握し、問題を解決し、将来を展望することができる能力を育成します。
領域3 自然と科学技術	科学技術の進歩と発展により、豊かになった人間社会の中で、自然と科学技術への理解を深め、人間の生き方を選択・決定していく能力を育成します。
領域4 数理と情報	コンピュータの操作技術やマナー、情報処理システムの構造や原理、数理学の思考方法や解析方法の基礎を学び、現代社会において必要とされる情報処理の能力や技術、数理感覚を育成します。
領域5 言語とコミュニケーション	国際化の浸透する現代社会を生きるための基本的能力である、外国語コミュニケーション能力を育成します。
領域6 健康とスポーツ	充実した生活の基盤となる健康の保持増進を図るとともに、生涯にわたって豊かなスポーツライフを送るための知識や技術を実践しながら体得します。
領域7 トータルライフデザイン	女性が社会で自立して生きていくための基礎的能力・スキルを育成するとともに、他者と共に生きる社会の中でさまざまな役割を果たし、ライフステージにおける課題を乗り越え、生涯というタイムスパンで自分の人生をデザインするための基礎的な力を育成します。

3. 全学共通

教養教育科目を全学部で共通化し、原則として全ての教養教育科目を履修することができます。

ただし、カリキュラム等の理由により、一部の科目は特定の学部生しか受講することができません。

4. 履修方法

教養教育科目時間割から、履修を希望する科目を、履修登録期間中に S*map で登録する必要があります。ただし、受講希望者が、授業の定員数を上回った場合、受講者を抽選することがあります。

5. 授業科目

*科目ナンバーのルールについては、第2部を確認してください。

領域	科目名	単位数	配当学年	科目ナンバー*
思想と表現 領域1	哲学	2	1	ZK01-TE-010
	文学	2	1	ZK01-TE-020
	芸術	2	1	ZK01-TE-030
	心理	2	1	ZK01-TE-040
	言語	2	1	ZK01-TE-050
	人類学	2	1	ZK01-TE-060
歴史と社会 領域2	歴史	2	1	ZK01-HS-010
	法	2	1	ZK01-HS-020
	日本国憲法	2	1	ZK01-HS-030
	経済	2	1	ZK01-HS-040
	社会	2	1	ZK01-HS-050
	地理	2	1	ZK01-HS-060
	教育	2	1	ZK01-HS-070
自然と科学技術 領域3	物理の世界	2	1	ZK01-NS-010
	化学の世界	2	1	ZK01-NS-020
	環境の科学	2	1	ZK01-NS-030
	地球の科学	2	1	ZK01-NS-040
	生命の科学	2	1	ZK01-NS-050
数理と情報 領域4	数理の世界	2	1	ZK01-MI-010
	統計の世界	2	1	ZK01-MI-020
	コンピュータと情報Ⅰ	2	1	ZK01-MI-031
	コンピュータと情報Ⅱ	2	1	ZK01-MI-032

領域	科目名	単位数	配当学年	科目ナンバー*
言語とコミュニケーション 領域5	外国語（英語A）	1	1	ZK01-LC-010a
	外国語（英語B）	1	1	ZK01-LC-010b
	外国語（英語C）	1	1	ZK01-LC-010c
	外国語（英語D）	1	1	ZK01-LC-010d
	外国語（ドイツ語Ⅰ）	1	1	ZK01-LC-021
	外国語（ドイツ語Ⅱ）	1	1	ZK01-LC-022
	外国語（フランス語Ⅰ）	1	1	ZK01-LC-031
	外国語（フランス語Ⅱ）	1	1	ZK01-LC-032
	外国語（中国語Ⅰ）	1	1	ZK01-LC-041
	外国語（中国語Ⅱ）	1	1	ZK01-LC-042
	外国語（ポルトガル語Ⅰ）	1	1	ZK01-LC-051
	外国語（ポルトガル語Ⅱ）	1	1	ZK01-LC-052
	外国語（スペイン語Ⅰ）	1	1	ZK01-LC-061
	外国語（スペイン語Ⅱ）	1	1	ZK01-LC-062
	外国語（ハングルⅠ）	1	1	ZK01-LC-071
	外国語（ハングルⅡ）	1	1	ZK01-LC-072
スポーツと健康 領域6	健康とスポーツの理論	2	1	ZK01-SP-010
	健康科学※	1	1	ZK01-SP-020
	スポーツ実習A	1	1	ZK01-SP-030a
	スポーツ実習B	1	1	ZK01-SP-030b
トータルライフデザイン 領域7	ファーストイヤーゼミ	1	1	ZK01-CL-010
	ジェンダー論入門	2	1	ZK01-CL-020
	生活と防災	2	1	ZK01-CL-030
	思考のスキル入門	2	1	ZK01-CL-040
	AI・データと社会	2	1	ZK01-CL-050-M
	ワークキャリアデザイン	2	1	ZK01-CL-060
	ビジネススキル入門	2	2	ZK01-CL-070
	キャリア形成実習Ⅰ	1	2	ZK01-CL-081
キャリア形成実習Ⅱ	1	2	ZK01-CL-082	

※「健康科学」は教育学部生のみ受講可能です。

※必修科目や領域ごとに必要な単位数等は、学部・学科で異なります。

※配当学年は、学部によって異なることがありますので、詳しくは第2部の教養教育科目のページを参照してください。

6. その他

詳しくは、新入生オリエンテーション又は在学生ガイダンスで説明します。

(趣旨)

第1条 この規程は、椋山女学園大学（以下「本学」という。）が、本学における基礎的情報教育を一元的に行うとともに、情報科学技術の研究を行うために設置する椋山女学園大学大学情報教育開発センター（以下「センター」という。）について必要な事項を定める。

(業務)

第2条 センターは、次の業務を行う。

- (1) 情報教育及びその方法の開発
- (2) 情報科学技術の分野における研究開発
- (3) 学術研究に必要な情報化に関する事項の企画及び各学部間の調整
- (4) 椋山女学園情報センター（以下「学園情報センター」という。）が実施する情報教育等の支援
- (5) その他センターの運営に必要な業務

(センター長)

第3条 センターにセンター長を置く。

- 2 センター長は、学長の命を受け、センターの事務を統括し、所属職員を掌握する。
- 3 センター長は、学園情報センター長が兼務する。

(委員会)

第4条 第2条の業務を行うために、椋山女学園大学大学情報教育開発センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

- 2 運営委員会に関して必要な事項は、学長が別に定める。

(教育研究主幹、研究員及び教育職員)

第5条 センターに、教育研究主幹1名及び研究員若干名を置く。

- 2 教育研究主幹は、教育職員のうちから、学長が推薦し、理事長が任命する。
- 3 教育研究主幹は、第1条の趣旨を実現するために、センター長を補佐し、第2条の業務を推進する。
- 4 教育研究主幹の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 5 研究員は、センター長が推薦し、学長を経て理事長が任命する。
- 6 研究員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(庶務)

第6条 センターの庶務は、管財営繕課が行う。

(委任)

第7条 この規程に定めるもののほか、センターの運営に必要な事項は、運営委員会に諮り、学長が定める。

(改廃)

第8条 この規程の改廃は、学長の意見を聞いて、理事会の議を経なければならない。

附 則

この規程は、平成14年5月17日から施行し、平成14年5月1日から適用する。

附 則（平成19年規程第27号）

この規程は、平成19年9月1日から施行する。

附 則（平成23年規程第13号）

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則（令和7年規程第37号）

この規程は、令和7年4月1日から施行する。

(趣旨)

第1条 椋山女学園大学大学情報教育開発センター（以下「センター」という。）の業務を円滑に運営するために、椋山女学園大学大学情報教育開発センター運営委員会（以下「委員会」という。）について必要な事項を定める。

(委員会)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって構成する。

- (1) センター長及び教育研究主幹
- (2) 各学部から選出された委員 各1名
- (3) その他センター長が必要と認めたもの

2 前項第2号及び第3号に掲げる委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(審議事項)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの管理運営の基本方針に関する事項
- (2) センターの予算及び決算に関する事項
- (3) センター規程等に関する事項
- (4) センターの事業計画に関する事項
- (5) 椋山女学園大学の教育カリキュラムの提供に関する事項
- (6) センターの人事に関する事項
- (7) その他センターの運営に関する必要事項

(会議と議決)

第4条 委員会は、センター長が招集し、議長となる。

2 委員会は、委員の半数以上の出席により成立する。

3 委員会の議決は、出席者の過半数で決し、同数の場合は、議長の決するところによる。

4 会議には、管財営繕課長、情報専門員及び教務課長が陪席する。

(規準の改廃)

第5条 この規準の改廃は、委員会が発議し、教授会の審議を経て、大学協議会に諮り学長が決定する。

附 則

この規準は、平成14年5月17日から施行し、平成14年5月1日から適用する。

附 則（平成19年大規準第8号）

この規準は、平成19年9月1日から施行する。

附 則（平成21年大規準第10号）

この規準は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（平成23年大規準第4号）

この規準は、平成23年4月1日から施行する。

附 則（令和7年大規準第8号）

この規準は、令和7年4月1日から施行する。

(趣旨)

第1条 椋山女学園大学大学情報教育開発センター（以下「センター」という。）の業務を円滑に運営するために、椋山女学園大学大学情報教育開発センター運営委員会（以下「委員会」という。）について必要な事項を定める。

(委員会)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって構成する。

- (1) センター長及び教育研究主幹
- (2) 各学部から選出された委員 各1名
- (3) その他センター長が必要と認めたもの

2 前項第2号及び第3号に掲げる委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(審議事項)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの管理運営の基本方針に関する事項
- (2) センターの予算及び決算に関する事項
- (3) センター規程等に関する事項
- (4) センターの事業計画に関する事項
- (5) 椋山女学園大学の教育カリキュラムの提供に関する事項
- (6) センターの人事に関する事項
- (7) その他センターの運営に関する必要事項

(会議と議決)

第4条 委員会は、センター長が招集し、議長となる。

2 委員会は、委員の半数以上の出席により成立する。

3 委員会の議決は、出席者の過半数で決し、同数の場合は、議長の決するところによる。

4 会議には、管財営繕課長、情報専門員及び教務課長が陪席する。

(規準の改廃)

第5条 この規準の改廃は、委員会が発議し、教授会の審議を経て、大学協議会に諮り学長が決定する。

附 則

この規準は、平成14年5月17日から施行し、平成14年5月1日から適用する。

附 則（平成19年大規準第8号）

この規準は、平成19年9月1日から施行する。

附 則（平成21年大規準第10号）

この規準は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（平成23年大規準第4号）

この規準は、平成23年4月1日から施行する。

附 則（令和7年大規準第8号）

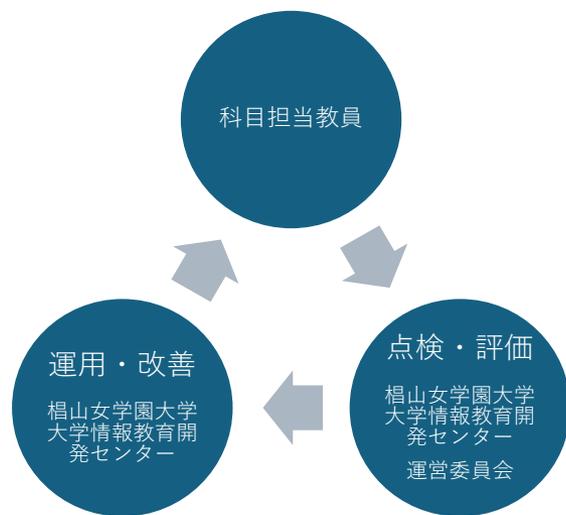
この規準は、令和7年4月1日から施行する。

大学等名	椋山女学園大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	椋山女学園大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム	申請年度	令和 7年度

目的

Society5.0の基盤に係る数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識を身につけ、それらを業務に効果的に活用できる人材を目指すための教育プログラムです。本プログラムはデータサイエンスやAIに関する基礎知識を身につけることを目的としています。

実施体制



科目構成と修了要件

学部・学科	科目名	修了要件
全学部	AI・データと社会	「AI・データと社会」(2単位) を修得すること

【対象学部学科】

椋山女学園大学の全学部生 (2024年度入学以降の学生)

【開講科目】

「AI・データと社会」 全学共通開講 教養教育科目 (領域7 トータルライフデザイン)
授業形態：オンデマンド形式

【修了要件】

「AI・データと社会」(2単位) を修得すること

身につけられる能力

- ・現代社会におけるデータサイエンスやAIの重要性を理解し、その活用の現状を把握することができる。
- ・データやその分析結果を読み取るための基礎知識を身につけることができる。
- ・データやAIを活用する際の留意事項を把握し、その重要性を理解することができる。
- ・プログラミング、アルゴリズム、機械学習など、AI・データサイエンス分野における技術的基礎を理解することができる。
- ・表計算ツールを活用して、適切にデータの収集・分析、グラフ作成、データベース操作を実行できる。